

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	西宮市立樋ノ口小学校 主幹教諭 高見 祥一	研究グループ名 西宮で平和教育を考える会	4
-----------------	--------------------------	-------------------------	---

研究テーマ分類番号 ( 10 )

(1) 研究テーマ

西宮の郷土の特性を生かした平和教育の展開

(2) 研究経過及び具体的な取組

フィールドワークBコース (甲陽園・甲山コース) (於: 甲陽園・甲山周辺)

- ・平和マップ西宮のBコースを、グループメンバーと市内の教職員、卒業生の10数名で歩き、見学した。甲陽園地下壕の保存状況や甲山山頂の平和塔を実見し、そこにこめられた平和への思いを感じることができた。

フィールドワークの反省と年間の計画の検討 (於: 西宮市教育会館)

- ・市内のフィールドワークを継続していくとともに、自治体が戦争体験の保存を行い、語り継ぎをしている先行実践の豊富な沖縄から平和教育の方法や理念を学ぶという今年の方針を決めた。

6月11日 (水) 次回のフィールドワークの計画と、沖縄を素材にした教材研究

(於: 西宮市教育会館)

- ・鳴尾、甲子園方面の軍需工場に起因する被害の大きさを実感した。沖縄の基地問題に関する授業の指導案から、地域の地図や児童作文を資料として使う方法を学んだ。

7月23日 (水) 8月の実地研修の計画と打ち合わせ (於: 西宮市教育会館)

- ・夏季休業中の承認研修を行うため、訪問可能な平和ミュージアムや平和モニュメントを検討した。その結果、大阪市内で研修を行うこととした。訪問可能な近所にも、何か所も平和を学べる場があることを学んだ。

8月 8日 (金) 実地研修 (ピースおおさか・吹田市立平和祈念資料館)

- ・グループメンバーのうち4名で、郷土の空襲体験を中心に展示している2つの資料館を訪問し、郷土の戦争を語り継ぐ方法について考察した。遺物や証言を整理し、展示し、語り継ぐためには、専門のスタッフと常設で開かれた展示スペースが必要だと分かった。

9月17日 (水) 次回のフィールドワークの計画と、郷土資料に関する教材研究

(於: 西宮市教育会館)

- ・川西航空機工場の歴史を学びなおし、戦争に向かう総動員体制や、軍需施設に依拠したまちづくりの危うさを知る事となった。また、満州国の歴史を学びなおし、その歴史から学んで近隣諸国との友好をめざすことの大切さを感じた。

10月18日(土) フィールドワークCコース(川西航空機コース)

(於:武庫川学院・甲子園歴史館・甲子園口周辺・武庫川一帯)

- ・平和マップ西宮のCコースを、グループメンバーと市内の教職員、市民の10数名で見学した。まちをあげて戦争に協力した武庫川線の痕跡をたどり、身近な戦争の歴史を実感した。また、武庫川学院や甲子園歴史館の資料からはかつての鳴尾村のたたずまいにおもいをはせ、平和学習における想像力の育成の大切さを確認した。

10月22日(水) フィールドワークの反省と沖縄フィールドワークの計画の検討

(於:西宮市教育会館)

- ・貴重な教材である鳴尾村関係の資料を活用するためにも、さらにフィールドワークを続けていきたいと感じた。沖縄については、昨年度の下見のコースを振り返り、バスで行けるコースにするための取捨選択を検討した。

11月12日(水) 沖縄フィールドワークの計画の検討と沖縄を素材にした教材研究

(於:西宮市教育会館)

- ・沖縄フィールドワークの検討では、過去の沖縄戦の戦跡と現在の基地問題との両方を学べるコースを模索した。その中で、沖縄から学べることの重要性を確認した。教材研究では、沖縄の歌、芸能、絵本など、沖縄の文化にふれ、それらを切り口とする授業の良さを学んだ。

11月26日(水) 沖縄フィールドワークの計画の検討と沖縄を素材にした教材研究

(於:西宮市教育会館)

- ・12月の行程について詳細に検討し、各ガマの概要、美術館や資料館などの内容について交流した。沖縄戦の追体験や基地のようすの実見など、現地に行くことの意義を確認した。また、対馬丸記念館の内容から、弱者が犠牲になる戦争の実相について考察し、平和な社会を築くことの重要性を再認識した。

12月26日～(予定) 沖縄フィールドワーク